

西谷啓治 （幼名） 哲學者、文學博士。明治三十三年一月二十七日石川縣生れ、平成二年十一月二十四日歿（一九〇一—一九〇二）。大正十三年京都市國文學部哲學科卒。昭和十八年同大教授、二十八年大谷大學教授、五十七年文化功勞者。西田幾多郎の師事した所謂京都學派の一人。譯著書に、シェリング著『自由意志論』（譯、昭和二年八月五日岩波書店「哲學古典叢書」）、『根源的主體性の哲學』（昭和十五年十月二十五日弘文堂書房）、『世界觀と國家觀』（昭和十六年八月五日弘文堂書房）、『世界史の立場と日本』（合著、藤田親厚編、昭和十八年二月二十五日中央公論社）、『哲學年鑑・昭和十八年版』（第一、第二編）（共編、昭和十九年一月二十日大阪・靖文社）、『神と絕對無』（昭和二十二年八月十日弘文堂書房）、『西田先生の先生片影』（合著、高山岩男編、昭和二十四年一月十五日愛知・黎明書房）、『實存と虛無と類廢（座談）』（合著、昭和二十四年二月十五日弘文堂「アテネ文庫」）、『西田先生とその哲學』（合著、鹿野久恒編、昭和二十四年四月二十日石川・西田幾多郎先生頌徳記念會）、『ヒトリズム』（昭和二十四年十一月十五日弘文堂「アテネ文庫」）、『ドストエフスキの哲學—神・人間・革命』（合著、弘文堂編集部編、昭和二十五年十一月十五日弘文堂「現代のシンボリズム」）、『わが師を語る—近代日本文化の側面』（合著、社會思想研究會編、昭和二十六年四月二十日社會思想研究會出版部）、シェリング著『人間的自由の本質』（譯、昭和二十六年五月二十五日岩波書店「岩波文庫」）、『戰後日本精神史』（合著、久山康編、昭和二十六年七月十五日基督教徒兄弟會、創文社発売）等。